

重点施策		図書館活動の充実		評価実施者		所 属 図書館 職・氏名 館長 森 昌之		
重点施策の概要	目 的	生涯学習の拠点として、市民の暮らしに役立つ図書館を目指し、充実した蔵書の構築に取り組むとともに、子どもの読書週間の定着を推進するため、学校における読書活動の環境づくりを支援します。						
	今年度の主要事業	①学習拠点としての図書館の充実 ②子ども読書活動の推進						
事業の目標と実績	区 分		単位	H22	H23	H24	特記事項	
	1	1日当たり入館者数 (本館)	目標 実績	人	154 132	197 300	303 324	来館者数 106,443人 目標10万人 開館日数 329日
	2	市民1人当たり貸出冊数	目標 実績	冊	2.5 2.1	3.3 2.1	5.3 5.1	貸出冊数 217,112冊 全国4～6万人市平均 5.3
	3	回転率(本館・個人) (貸出冊数/蔵書冊数)	目標 実績	回	0.9 0.7	1.1 0.7	1.3 1.6	図書館蔵書数 135,059冊 全国4～6万人市平均 1.3
	4	市民1人当たり蔵書冊数	目標 実績	冊	3.7 2.9	3.7 3.0	3.8 3.2	全国4～6万人市平均 3.8
	5	読書アルバム100冊達成数	目標 実績	人	150 145	300 285	300 227	1,000冊達成者2名 図書館学級文庫貸出冊数16,228冊
事業の分析効果の検証		①入館者、貸出冊数、回転率は、旧図書館と比較して大きく伸びた。特に、来館者数は移転前の約2.5倍となり、移転前ではほとんど来館していなかった10代や、子どもを連れた20～30代の子育て世代が増えるなど利用者の幅が広がった。これは、移転によるアクセス改善や蔵書の充実、企画展示・イベントなどのソフト事業実施により「便利で役立つ立ち寄り型図書館」が認知・評価されたものと考えられる。						
課題		①当館の市民1人当たり蔵書冊数は、全国同規模の市立図書館の8割半ばに留まっている。蔵書は図書館の最も重要な基盤であり、入館者数や貸出冊数、回転率の維持・向上には蔵書の充実が不可欠なことから、今後も継続的な取り組みが必要である。 ②子どもの読書活動の推進については、学校との連携をより密にしながら、学校・図書館両面						
評価	A	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 旧図書館及び前年度と比較すると、数値は伸びており、立ち寄り型図書館としての評価は定着してきたものと考えられる。 評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 地域の情報拠点として、図書館の基本的な資産である蔵書の充実を図りながら、利用者視点に立った各種サービス強化とソフト事業を展開する必要がある。						
【評価の区分】								
A: 期待どおりの成果が得られ、今後も事業を継続する								
B: ほぼ期待どおりの成果が得られたが、さらなる発展のため事業を見直す余地がある								
C: 概ね期待した成果は得られたが、事業の見直しが必要である。								
D: 期待する成果が得られず、廃止も含めた見直しが必要								
事業の今後の方向性	立ち寄り型の便利で使いやすい図書館として、図書館が果たすべき役割を常に検証しつつ、利用者ニーズに応えた蔵書の充実と、より親しまれる地域の情報拠点を目指す。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☐ 質的向上 ☐ スピートアップ ☐ 検証 ☒ 継続							
◎外部評価委員の評価・意見等								
点検・評価に関するコメント	親切で行きやすいと評判。新刊も要望をしたら入れてくれる。							